

令和3年度学校自己評価表

鳥取県立境港総合技術高等学校

中長期ビジョン (学校ビジョン)		1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけて未来を切り開く人間を育成する		今年度の重点目標		1 基本的生活習慣の確立		3 ふるさとキャリア教育の推進		5 業務改善の取組			
						2 基礎学力の向上		4 地域との連携と情報発信					
年 度 当 初						最 終 評 価 (2月)							
評価項目		具体的項目		現状		具体的目標		具体的方策		経過・達成状況		評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	■家庭連絡を適宜行い家庭と連携し、頭髮服装違反の減少に努めた ■昨年度と比較して遅刻者が15%減少している ■「分離礼」については、定着しつつある。「静止礼」の定着が不十分な面がある		■生徒が主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組む ■遅刻総数を昨年度より10%減少する ■「分離礼」「静止礼」を習慣化する		■適切な指導を繰り返し、主体的に考えさせ、規範意識の向上を図る ■問題行動には、保護者や関係機関との連携を密にし、粘り強い指導を行う ■始・終業時での挨拶を徹底し、教職員自ら模範を示し、「分離礼」「静止礼」を定着させる		■頭髮服装指導において、1回目の指導が不備のものの目標人数が昨年より15%減少している。クラス目標とするなど、進路につながる事を伝えることで担任・学年による指導を徹底した ■遅刻について、毎月、目標を達成し、昨年度より10%減少している ■始業時・終業時での「分離礼」は定着が見られ、各授業で毎時間の粘り強い指導が定着の理由として考えられる。校内での「静止礼」については定着が見られず更なる指導が必要である		B	■時間厳守や頭髮服装については、進路指導にもつながるので、関係分掌と連携し、日頃から教職員全員で粘り強く指導する ■始業時、終業時での挨拶を徹底し、教職員自ら模範を示し、「分離礼」「静止礼」を定着させる		
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	■月1回の学年会や各分掌と適宜情報交換を行い、生徒情報が共有され、生徒理解に努めた ■教育支援が必要な生徒については、分掌の枠を越え連携し、一丸となって生徒対応をしている ■朝読書の達成率が前年より減少し、落ち着いて読書に取り組めていない生徒が増えた ■各種人権に関する実態調査(全学年)を実施し、その結果を踏まえ、いじめ防止LHR等を行った		■全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、きめ細かな指導を行う ■朝読書の達成率を全学年96%を目指す ■人権感覚を身につけ、いじめのない学校づくりを行う		■生徒情報を共有し、連携を密にし、面談等を行うなど迅速に指導を行う ■ハイパー・QUを最大限に活用し、面談や情報共有を行い、生徒理解に努める ■人権意識と共通意識を高めながら、全教員で連携し、生徒へ人権の尊重に関する指導に取り組む		■月一回の各学年会、各教科・科会において、各クラスの状況報告があり、各学年、各教科、各科、各分掌で生徒の情報共有が出来ている ■朝読書達成率94%、前年度より2%上昇した。目標値に達成できなかったが、第1学年は98%と成果が現れた ■人権教育については、例年どおり職員全体研修、生徒対象の講演会を行い充実したものになった。LHRの展開もいじめLHRを含め、各学年団・各担任の創意工夫が生かされたものになった			B	■生徒情報を共有し、関係分掌と連携を密にし、学習や生活態度を改善させるため、面談等を行うなど迅速に対応する ■ハイパー・QUを最大限に活用し、面談や情報共有を行い、生徒理解に努める ■人権意識と共通意識を高めながら、全教員で連携し、生徒へ人権の尊重に関する指導に取り組む	
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	■マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎学力が徐々に向上している ■「G Suite For Education」を導入し、臨時休業及び分散登校時に活用した。また、授業公開、研修を通じて授業への活用方法を検討した ■生徒用に「スタディサプリ」、教職員用に「Find! アクティブラーナー」を導入した		■生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進するとともに、学びに向かう姿勢を育成する ■マナトレや補習等を充実し、基礎学力の定着と向上に努める ■ICT活用の校内研修や研究授業を増やし、授業力の向上を図る		■今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努める ■「G Suite For Education」の授業への活用方法について検討する ■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講をする		■マナトレについては、クラスによって進度に多少のばらつきはあるものの、基礎力診断テストの結果に少しずつ表れ、着実にマナトレ実施の効果は出てきている ■「G Suite For Education」では、課題の出題や補習などに活用した。様々な場面でClassroom、Meetを活用した		B	■今後もマナトレを継続して取り組み、更なる基礎学力の向上に努める ■オンライン授業の対応とGIGAスクール学習推進に向けた授業への活用方法を研究する ■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講をする		
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	■3級海技士(航海)2名、(機関)1名筆記合格。4級海技士(航海)4名、(機関)1名筆記試験合格、1級小型船舶操縦士26名受験し全員合格 ■自動車整備士登録試験、11名全員合格 ■第1種電気工事士3名合格、第2種電気工事士20名合格 ■介護福祉士14名合格。9年連続合格率100%達成 ■地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている		■時代にマッチした専門教育を深化する ■将来のスペシャリストの育成を目指す ■資格・検定試験の合格率を向上する		■専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す。 ■専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させる。		■各科専門の資格取得を啓発し、講習については生徒の積極的な参加とわかりやすい指導を行い、合格率も着実に増加している ■社会人講師の招へいや実習施設との連携を行い、効果的な学習指導を実施し、生徒は専門の知識や技術等を習得した			A	■今後も、生徒が主体的に学習するために、継続的・積極的に補習や試験対策等に取り組んでいく ■今後も社会人講師の招へいや実習施設との連携を行い、効果的な学習指導を実施するとともに、専門知識と技術を学ぶ	
3 ふるさとキャリア教育の推進	ふるさとキャリア教育の充実	■キャリアパスポートでは、学期の振り返りや課題研究の取組等の記入ができた ■コロナ禍ではあったが、海洋科、機械科は時期をずらして、福祉科は予定どおりインターンシップを実施した ■福祉科は実習施設との連携を密にし、実習前後の指導を徹底し、実習のねらいや課題が明確にできるように生徒自身に考えさせた ■専門的な就職先に、86.2%内定した ■保護者と生徒を対象とした「内航船員の仕事説明会」を実施した		■進路指導計画に基づいた指導を徹底する ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導を行う ■インターンシップにより職業観・勤労観を育成する		■生徒の体験・経験を増やすための授業保障を行う ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、将来を見据えた進路指導を今後も継続する ■コロナ禍に対応したりリモートによる職場見学や研修を企画する		■進路指導計画に基づいた指導を徹底し、昨年度より求人社数は減少したものの、一次応募内定状況が約91%であった ■キャリアパスポートについては、昨年度の反省点から内容を一部変更し、記録の習慣づけを図った ■インターンシップや介護実習は、コロナウイルス感染症防止対策を取りながら工夫を凝らし実施し、職業観・勤労観の育成につながった		B	■生徒の体験・経験を増やすための授業保障を行う ■キャリアパスポートの内容を踏まえ、事前に考えさせる時間を設定し、振り返りと改善へと導く指導を行う ■今後もコロナ禍に対応したりリモートによる職場見学や研修を企画する		
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	■コロナ禍で、土曜授業等の事業がほとんど実施できなかった。しかし、新巻鮭販売は、感染予防対策実施参照ガイドライン(鳥取県版イベントガイドライン)に則り、安全安心の販売活動を実施した ■学校独自事業については、鳥取県立学校版感染症予防ガイドラインに則り、感染予防対策を検討し実施したが、一部の事業で実施できないものもあった		■地域連携・地域交流活動を通して、生徒に自信を持たせ経験値を上げ、役立ち感、有用感を育む ■地域基幹産業の発展に寄与できる人材を育成する ■手話を学ぶことを通して、障がいに対する理解を深める		■コロナ禍を踏まえ、感染予防対策を検討し、地域に出かける活動など地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を行う(学校独自事業等の精選と内容の充実) ■ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う ■学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う		■感染予防対策を行い、コロナ禍でも実践できる実習や活動等を実施した。			A	■今後もコロナ禍を踏まえ、感染予防対策を検討し、地域に出かける活動等さらに地域連携を深め、地域貢献できる活動を行う	
	学校教育活動の情報発信	■実習や行事等、マスコミへの情報提供を迅速に行っている ■各科、学年、分掌等の実習や行事等を開催ごとにホームページに掲載し更新した		■特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解を深める ■ホームページによる情報発信の充実を図る		■引き続き、マスコミへの迅速な情報提供やホームページの更新等、迅速な情報発信に努める		■マスコミへの迅速な情報提供やホームページの更新等、迅速な情報発信を行った ■中学生に向けての『卒業生からのメッセージ』を作成、配布し、各科の卒業生の進路と活躍を広報した		A		■引き続き、迅速なマスコミへの情報提供やホームページの更新等を行い、迅速な情報発信に努める ■中学生向けのPRポスターを作成し、広報活動をする	
5 業務改善の取組	学校業務の精選と効率化	■コロナ禍の影響はあったが、職員間の情報交換を密にし、会議の時間が短縮できた		■会議・委員会の業務を見直し、整理、統廃合を図る ■各会議は1時間以内に終了する		■会議資料を事前に配布し、内容等を把握する ■協議、連絡・報告は、前もって関係分掌と話し合い、必要最小限にとどめる		■会議の時間を短縮するよう事前に資料を配布し、1時間以内で終了できた		B	■引き続き会議資料を事前に配布し、内容等を把握する ■協議、連絡・報告は、事前に関係分掌と話し合い、必要最小限にとどめる		
	長時間勤務者の解消	■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行った ■時間外勤務を月45時間以内、年360時間以内とすることが、ほとんどできている		■時間外業務を月45時間以内とする ■時間外業務を年360時間以内とする		■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う ■目標時間を越える可能性のある場合は、事前に相談する		■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行った ■コロナ禍での制限があり、時間外勤務を月45時間以内、年360時間以内とすることが、ほとんどできた。			B	■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う	